

別紙

フッ素ワックスのクリーニング方法 ガイドライン（参考和訳）

*※英語版との相違がある場合は、英語版を優先する。

ワクシング用具：

ワクシング用具を掃除する際に最も重要なのは、すべてのホコリを取り除くことです。そのため、高圧エアーや掃除機で用具を丁寧に掃除します。ブラシに関しては、ワックスクリーナーにブラシを浸した後、高圧エアブローを行い、乾いたら掃除機で吸い取るようにしてください。柔らかいブラシ、ロト・ウール、ロト・フリース（パウダーや液体に使用）は洗浄が難しいことから、交換するのがベストです。スクレーパーはワックスリムーバーできれいにしましょう。ワックステーブルとスキープロファイル、スキーバイスもきれいにします。アイロンはフッ素フリー（FF）ホットワックスでクリーニングし、きれいなペーパーで拭き取ります。

スキー：

フッ素からベースをきれいにする方法としての再研磨（ストーンフィニッシュ）は、今のところフッ素を完全に除去する方法として結論が出ていません。そのため、再研磨後もFFワックスでベース（滑走面）を数回ホットワクシングすることをお勧めします。

まず、液体ワックスリムーバーでスキーを最低2回クリーニングします。その間にブラッシング（メタルブラシ）をし、乾燥させます。フッ素ワックス用ワックスリムーバーにはフッ素が含まれている場合がありますので、普通の液体ワックスリムーバーをご使用ください。

次に、ホットワックスで最低2回スキーをクリーニングし、それを削り取りません。フッ素フリーワックスと清潔な道具（スクレーパー、ブラシ等）を使うことに注意してください。ベースとなるワックスは、自分が使いやすいものを選ぶこと（柔らかいワックスと硬いワックスのミックスが良いようです）。

使用するワックスがフッ素フリーであることを確認してください。雪上トレーニングに行く際は、FFワックスでワクシングをするだけでなく、クリーニングをしたすべてのスキーで一度滑ってください。

スキーバッグ：

スキーバッグは、ブロワーや掃除機で丁寧に掃除してください。

ワックスボックス：

ワックスボックスとボックス内にあるすべての引き出しをブロワーや掃除機、ワックスリムーバーで丁寧に掃除してください。

作業着（エプロン、グローブ、キャップなど）：

フッ素フリー製品を使用する前に、作業着やエプロンを洗濯してください。衣

服やエプロンにフッ素が付着している場合、スキーからフッ素が検出される可能性があります（コンタミネーション）。

ワックス

使用するワックスがフッ素フリーであることを確認してください。フッ素の含有量に確信がない限り、「公式な」ワックスに独自の外部添加剤を混ぜないでください。このプロジェクトの経験から、多くの製品、特に洗浄剤や潤滑剤には禁止されているフッ素系添加剤が含まれていることがわかっています。

シーズンに向けてワクシング用具を準備する際、思慮深いアプローチと様々なクリーニングの手順をよく理解することが必要です。まず、大きな部品（ワックスキャビン、テーブルなど）のクリーニングから始め、次に細部のクリーニングに移るのが良い手順になります。そうしないと、途中でフッ素が混入するリスクが大きくなり、フッ素を完全に除去するためには、手順やステップを何度もやり直さなければならなくなります。